

C-10 市町村保健師の精神的健康度に関する文献研究

川口桂嗣、井手段幸樹（佐久大学看護学部）

キーワード：市町村保健師、精神的健康度、ストレス

要旨：全国の市町村保健師の精神的不健康のハイリスク者が44.4%を占めている。そこで、本研究は保健師の精神的健康度を保つために問題となる要因について文献から俯瞰し、今後の取り組むべき課題について検討を行った。保健師の精神的健康を妨げる要因として、仕事のストレスが高い傾向にあることが明らかになった。保健師の多様な業務内容が理想とする保健師モデルの獲得が困難となっている状況、地域住民からの暴言や対応困難事例による疲弊、自身の業務を溜め込んでしまい業務時間内に適切に処理できないこと等が、精神的健康を妨げていた。

A. 目的

地域保健サービス従事者、とりわけ保健師は、対人サービスの中心といえる。しかし、その対人サービスの特性から、心身ともに疲弊を感じている。全市町村を対象とした調査では、市町村保健師の精神的不健康のハイリスク者が44.4%¹⁾を占めており、地域で働く保健師のパワーレスが指摘されている。

そのため、本研究では保健師の精神的健康度を保つために問題となる要因を文献から俯瞰し、今後の取り組むべき研究課題を明らかにする。

B. 方法

検索データベースとして「医学中央雑誌刊行会 医中誌 Web」を用いて、現在までに発行された全ての論文を対象とし、「保健師」「労働」「精神保健」「ストレス」「精神疾患」「バーンアウト症候群」「抑うつ」のキーワードを含む文献を検索した。なお、会議録は除いた。

論文の抽出は、主観的・場当たりの行うことを避けるため、システマティック・レビューの方法に準じて行った。研究目的や適格基準から著者らが分析に必要と考えられる項目を、(1)業務に関して（勤務状況、仕事の量、仕事の質）、(2)メンタルヘルスに関して（ポジティブな要因、ネガティブな要因）とし、項目ごとに論文内容を抽出しデータ化した。

C. 結果

本研究の適格基準に該当した研究対象論文は、

10編であった。出版年は2016年が2編、2014年が2編、2013年が1編、2012年が1編、2007年が1編、2005年が1編、2004年が1編であった。

対象となる文献の研究内容を分類した結果、(1)業務に関して（勤務状況、仕事の量、仕事の質）について6編、(2)精神的健康に関して（ポジティブな要因、ネガティブな要因）について9編であった。

(1)業務に関しては、仕事を辞めたいと思う理由について、「仕事に興味・やりがいを持ってない」が20.7%であった²⁾。また、保健師は複雑で長期的な個別相談の増加、緊急対応を要する事例の増加、相談対象者から攻撃的な言葉を浴びる機会の増加等や、前例のない新規事業の担当になり試行錯誤で模索する困難さ、係長職としてイメージ通りに自分が機能できない事に対する苛立ちやもどかしさであった。さらに、個別相談などの保健事業に携わるだけでなく、各種保健計画の策定の事務局を担い、保健部門ではない他部門にも異動する等、従事する職務が多様であることに加えて、職務内容が時代の変化に対応して変容し続けることの難しさが挙げられていた³⁾。

その他、行政職務を遂行する行政職員としての役割と、政策を推進する事務局としての役割、住民ニーズに対応して保健サービスを実践する専門職としての役割の葛藤や事務職でもできる

のに保健師が担当する必要性を理解しにくいと挙げられていた。

(2) 精神的健康に関しては、精神的健康には年齢、保健師経験年数、所属市町村経験年数、超過勤務頻度、休暇取得状況、事務職との関係、保健師活動への組織的な取り組みが関連していた。また、仕事意欲には、同僚保健師同士のサポート、保健師活動への組織的な取り組み、相談・指導を受けられる環境、保健師の判断・意見の反映、他部署保健師との関係・協力が関連していた。

また、保健師は、精神的な健康認識(MCS)が低く、仕事のストレスが高い傾向であり、特に中間管理職の保健師のストレス反応は、スタッフや管理職以上に比べて強いとされ、中間管理職の保健師のストレス反応について、「時間内に仕事が処理しきれない」が増強因子として、「家庭生活に満足だ」「私の職場の雰囲気は友好的である」「情報収集を心がけている」「職場外で悩みを話す機会がある」が減弱要因であるとされた。

保健師は「仕事の負担度」におけるストレス要因を多く抱えている一方で、「仕事の適合性」に関しては「仕事が自分に合っている」「働きがいがある」と感じている保健師が多いとされ、精神的不健康となっている保健師は、1週間の実働時間が長く、職業性ストレスが高く、仕事の満足度も低い結果であった。保健師の勤続年数が長く、年齢が高いほど仕事の満足度が高かった⁴⁾。

D. 考察

文献検討の結果、保健師の精神的健康度を保つために問題となる要因は、業務量とともに業務内容による影響について述べられていた。保健師は、保健行政の専門家として地域住民を支えるための複雑で多様なニーズに応える高度な仕事要求が求められる一方で、公務員のメンタルヘルスに関して、低いソーシャルサポートと低い裁量度であることも報告されており、裁量度が低いことも仕事にやりがいを持つことができない状態であり、そのことは精神的健康度へ影響を与える要因であると考えられる。また、勤

続年数長く年齢が高いほど、職務満足度が高いという結果から、20歳代は基本訓練段階であるため上司からの仕事の指示に従って仕事を行うことが多く、会議においても自分の感情のコントロールを重視して、全体の意見を尊重し従い自分の思いを素直に発言できていない状態である。そのため、チーム仕事への貢献度、チーム仕事の自覚と意欲の低さが仕事の満足度の低さにもつながっており、職務満足度が低くなることにもつながる。職場での意見の反映の有無は精神的健康に影響をおよぼしている結果からも、職場環境として保健師が意見や思いを素直に発言できるような場面や雰囲気を作り出すことが、保健師の精神的健康を保つための課題であることが示唆された。

E. まとめ

精神的健康度を保つためには、専門職としてのやりがいを持てる機会が重要であり、職務満足度を高めることが重要である。

F. 利益相反

利益相反なし。

G. 文献

- 1) 筒井孝子：地域保健サービスの担当職員における連携評価指標開発に関する統計的研究. 厚生労働科学研究費補助金(健康科学総合研究事業)平成16年度研究報告書. 2004.
- 2) 井口理：行政保健師の離職意図に関連する「仕事の要求」と「仕事の資源」. 日本公衆衛生学会 63(5)：227-240. 2016.
- 3) 井口理：行政保健師の「仕事の要求」と「仕事の資源」の概念の明確化—離職を考えた状況と職場にとどまった思いの記述を通して—. 日本公衆衛生学会 3(1)：11-21. 2014.
- 4) 斎藤公彦, 川井八重：保健師業務における「満足度」に関する要因. 看護・保健科学研究誌 12(1)：143-148. 2012.